



## 社会福祉法人七葉会 特別養護老人ホーム 菅田心愛の里

**お話を伺った方** 施設長 伊藤様

**事業所紹介** 横浜市神奈川区

入居者の皆さんが、自由に自分らしい暮らし、時間を過ごしていただけるよう、10名ごとのユニットケアを行っている高齢者施設です。



### ◆就労訓練事業に申し込まれた理由をお聞かせください

もともと当法人は、「地域で困っている人がいたら手を差し伸べよう。」という理念で、昭和52年に保育事業からはじまり、その後、高齢者施設、障害者施設へと事業を展開してまいりました。横浜市の就労訓練事業は、以前、神奈川区の福祉事業の集まりの席でご紹介があり、われわれの理念と、就労訓練事業における中間的就労による自立支援の考え方が一致していたため、迷わず申請を決めました。

### ◆実際に就労訓練者を受入れた感想をお聞かせください

訓練者の皆さんは、初めは戸惑いながらも一生懸命取り組んでくださる姿があり、それが職員にも伝わって、「何とかお役に立ちたい」という気持ちで新たな気持ちでいるように思います。3か月の訓練期間中に徐々に仕事に慣れ、休憩時には職員間の雑談にだんだん馴染んでいく様子があり、限られた期間ではありますが一緒に仕事をしたい一体感が生まれています。これまで受け入れた方が就労につながったという連絡があると、一緒に働いた

職員にも報告していますが、「〇〇さんよかったね。」と喜び合う場面があり、事業の理念や仕事へのモチベーションが根づく機会になっています。

### ◆就労訓練事業に対するご感想などがありましたら。

神奈川区地域福祉保健計画「かながわ支え愛プラン」の委員として、高齢化の問題や貧困、引きこもりなど社会参加に困難のある世帯に、自治体、施設、地域コミュニティが連携して支える仕組みを作っていきたいという思いがあります。当施設には、地域のニーズにこたえるマンパワーや高齢者を支えるノウハウがあり、また、お役に立てることをやりがいを感じている職員がいます。これまで連携の試みとして、地域ケアプラザの要請を受けて、高齢者宅で手に負えなくなったごみ清掃や庭の整備などに、職員を派遣してお手伝いをするといった地域活動を行ってきました。就労訓練事業においても、従来の施設内の業務体験に加え、地域を支える側としてこのような活動を一緒に体験していただくなどの新しい連携によって、社会参加の支援に繋がるのではないかと可能性を感じています。



## 株式会社トライアングル

**お話を伺った方** マネージャー 齋藤様

**事業所紹介** 横浜市港北区

支える建築を目指し、高齢者・障害者の方々の福祉住環境コンサルティングや新築・リフォーム設計、建築設備機器の販売・メンテナンス、そして不動産業も展開し『すまいとしつらえ』をトータルで提案実現する会社です。



### ◆就労訓練事業に申し込まれた理由をお聞かせください

横浜市は様々な求人募集の窓口があり、それらを利用している中で就労訓練事業を知りました。弊社の取引先は福祉法人が多く、介護保険や障害福祉に関わる仕事もしているので、その一助になればと思い申し込みました。

### ◆実際に就労訓練を受け入れた感想をお聞かせください

今回初めての受け入れて、比較は出来ませんが、思った以上に訓練者が頑張っており、取り組みがスムーズに進んでいくことが出来ました。また、月1回振り返りを行い、そこで次の目標を設定し、自分で考えて行動するよう促していくなど、会社側ではなかなか出来ないことをしており、弊社でも取り入れたいと思いました。

### ◆事業所自体の変化や新たな気づきはありましたか

新たな人を受け入れることへの抵抗がなく、新しい人(訓練する人)が入りやすい職場環境であるということを確認することが出来ました。エルダー(指導担当者)も一緒になって訓練に取り組んでいました。

### ◆就労訓練から直接雇用への移行について感想をお聞かせください

普通の採用面接だけでは分からないその人なりの良さを知ることが出

来、その人なりの働き方を一緒に考えることが出来ました。また、訓練期間中に成長の傾向を見ることが出来たので、会社側としてもその先の成長をイメージすることが出来ました。成長のペースの度合いがわかることで、将来のことを伝えることが出来るのは会社側も訓練者側も安心できるのではないかと思います。

### ◆就労訓練の良い点、改善点についてお聞かせください

良い点は、訓練をする人の伸び方がどうなるのかが目で見てわかり、採用した後の成長がイメージしやすいことです。良いことも悪いことも予想がつき、事前に対処することが出来ます。

課題としては、どこまでの仕事をどこまで任せられるのか、何がよくて何がダメなのかの判断が難しいと感じました。また、時間を使うため、ある程度受け入れる側に余裕を作らなければならないので、人手の少ない会社だと難しいのではないかと思います。マッチング事業でもあるため、訓練を受ける人が何をどうしたいかによって適切なマッチングが出来るように業種や職種がいろいろあればいいと思います。更に言えば、国からの助成金等があれば事業者も参加しやすいのではと思います。それにより訓練者に過度な思い入れ(期待)をしないで済むのではないかと思います。

## 横浜市就労訓練事業支援センターとは

横浜市就労訓練事業支援センターは、横浜市の各区役所生活支援課と連携し、様々な事情のために「働きたいが、すぐに働きたいのが難しい」と感じている人と、就労訓練の場を提供している地域の事業所・企業の間をつないでいます。

## 横浜市就労訓練事業支援センター3つの機能

### 1 事業所向け相談

就労訓練事業についての詳しいご説明や、どのような業務を訓練として組み立てていくか、訓練実施に必要な手続きなどご相談に応じます。

### 2 利用者と事業所のマッチング

横浜市の各区役所生活支援課と連携し、就労訓練を希望する方の事情や希望に応じて、訓練先の事業所・企業を提案し、マッチングします。

### 3 就労訓練期間中の事業所サポート

訓練期間中の様子を把握し、よりよい就労訓練となるよう必要な調整や話し合いを行います。

就労訓練事業支援センターのURLはこちらから ⇒ [https://www.youthport.jp/shien\\_center/](https://www.youthport.jp/shien_center/)

## 横浜市就労訓練事業支援センター

# News Letter

vol.13

2021.1月発行

発行責任者  
横浜市就労訓練事業支援センター  
所長 熊部良子  
TEL 045-290-7239

## 新年のごあいさつ — 支援センター所長より

謹んで新春のおよこびを申し上げます

旧年中は格別のご厚誼にあずかり、心からお礼申し上げます。

2020年はコロナ禍という世界規模での苦境に遭遇し、耐えた一年でありました。就労訓練事業もその影響を避けることはできず、5月の緊急事態宣言期間中は完全に停止せざるを得ませんでした。しかし、それ以降は休止や延期となっていた訓練が再開され、また新規の訓練申込も徐々に増えており、毎月3～5件の新規利用申し込みが続いております。コロナ禍においても就労訓練事業の社会的な必要性は変わりありません。それどころかこのような不安定な社会状況においてはますます必要性が増すことと思われます。

しかしながら、就労訓練は事業所様のご協力がなければ成り立つものではございません。訓練生を受け入れるということはそもそも業務負担が増える面もあります。それに加えてこのコロナ禍においては感染リスクも考えなければならないというご負担をさらにかけることとなってしまいました。このような中でも訓練生を受け入れてくださっている事業所様、ご理解ご協力をいただいている事業所様には誠にありがたく、感謝申し上げます。皆様のお陰様で、社会的意義の高い就労訓練事業が継続・実施可能となっております。

私共、横浜市就労訓練事業支援センターは新しき年、皆様のご要望により一層お応えできるようさらに精励してまいります。本年もご厚誼のほどお願い申し上げます。

横浜市就労訓練事業支援センター 所長 熊部良子

## Contents

### ◆新年のごあいさつ — 支援センター所長より

### ◆認定就労訓練事業所のインタビュー

- INTERVIEW 1 社会福祉法人開く会 共働舎
- INTERVIEW 2 認定特定非営利活動法人横浜移動サービス協議会
- INTERVIEW 3 社会福祉法人藤嶺会 介護老人福祉施設弥生苑
- INTERVIEW 4 社会福祉法人敬愛 特別養護老人ホーム けいあいの郷 緑園
- INTERVIEW 5 社会福祉法人七葉会 特別養護老人ホーム菅田心愛の里
- INTERVIEW 6 株式会社トライアングル

※就労訓練事業所の認定が早い順に掲載

### ◆横浜市就労訓練事業支援センターの紹介





# 事業所のみなさまにお話をうかがいました



## 社会福祉法人 開く会 共働舎



お話を伺った方 施設長 萩原様

事業所紹介 横浜市泉区

農園芸、パン焼き菓子製造、陶器製造、これらの製品販売と喫茶のそれぞれの事業を用いて、本人主体の個別支援を行うことを目指した障害福祉サービス事業所です。



### ◆就労訓練事業に申し込まれた理由をお聞かせください

社会福祉法人なので世の中の役に立つことが仕事であり、当法人の事業を使ってお役に立てればと思い申し込みました。ユースポート横浜は同友会で面識があり、知っているところが行っているのであれば協力しようという気持ちになりました。精神疾患がある方の復帰前トレーニングをやったことがあり、社会に戻ろうとする人にとって共働舎の環境がプラスの影響を与えるのを知っていたことも申し込みの後押しになりました。

### ◆実際に就労訓練を受け入れた感想をお聞かせください

いろいろな方がいるということを知る機会となり、現場の職員にとって良い勉強になっていると思います。現場の職員からもそのような声が上がっています。

### ◆事業所自体に変化はありましたか

訓練者を受け入れることで、施設利用者が自分たちを先輩の位置に置くことができ、「してもらう側」から「する側」に回るという新鮮な立ち位置を経験し、経験の幅が広がりました。また、訓練者の指導担当職員以外

の職員も、訓練者の居心地の良さに自分たちの関わり方も関係していることを自覚するOJT的な役割も担っているように思います。

### ◆就労訓練から直接雇用への移行について感想をお聞かせください

働く場所とご本人との出会いであり、ここだったら上手くやっていけるねという出会いができたと思います。つながりが太く強くなり、どこかで切れてもまたつながることが出来るのではないかと思います。

### ◆就労訓練事業の良い点、改善点についてお聞かせください

少しでも社会の中に登場したいという気持ちのある人たちと社会をつなげる制度であり、区役所だけでは出来ないことだと思います。支援センターというフォローや相談の場があるのは安心感があります。課題としては、ご本人たちを訓練するだけではなく、社会環境も働きにくさを抱える人との付き合い方を考えるようにしないといけないのではないかと思います。訓練後、行き先がない人たちはどうなるのかが気になります。障害のある方をノーマルにするのではなく、環境が受け入れられるように就労場所に刺激を与えていく役割を持ってもいいのではないかと思います。

## 社会福祉法人 藤嶺会 介護老人福祉施設弥生苑



お話を伺った方 通所介護 管理者/課長補佐 嶋田様

事業所紹介 横浜市旭区

介護を必要とし、ご自宅では介護を受けることの困難な方を対象とした介護福祉施設。日常生活に必要なお世話や日常動作訓練等のサービスを提供するデイサービスも併設されています。



### ◆就労訓練事業に申し込まれた理由をお聞かせください

就労訓練事業支援センターから説明を受け、訓練の意義に共感して申し込みました。当法人は介護施設なので独居の高齢者の方と関わることもよくあり、社会的に孤立している人が増えていると感じています。社会福祉法人として、より地域や人とのつながりをもちたいというのが申し込みの動機です。

### ◆実際に就労訓練を受け入れた感想をお聞かせください

訓練者のおひとりおひとりに個性があり、ひとくりに言うのは難しいのですが、信頼関係が築けたと感じています。訓練を終了した方が当法人の送迎バスを見かけたときに手を振って挨拶してくれることもあり、地域とのつながりが持てたと感じています。

### ◆事業所自体に変化はありましたか

訓練では清掃業務を行っていただき、今まで行き届かないところをやってもらえました。介護職員が介護以外の業務に時間をとられて介護に専念できない現状がありましたが、介護に専念できるようになって助かっています。

### ◆就労訓練から直接雇用への移行について感想をお聞かせください

訓練期間中に仕事内容をしっかり把握してくれたので、スムーズに直接雇用に移行できたと思います。

### ◆就労訓練の良い点、改善点についてお聞かせください

学生のインターンシップは常識になっており、就労訓練も自分に合った働き方や働く場所を見極めるためには有効ではないか思います。課題としては、受け入れる側の問題だと思いますが、通常業務につきながら訓練者のケアをしなければならないため、細かな指導が行き届いていないと感じています。繁忙期に重ならないよう就労訓練のスケジュールを調整いただければ助かります。

### ◆その他に何かございましたらお聞かせください

労働環境のことなど、感想を言っていただければと思います。事業所へフィードバックをいただき、環境を整えていきたいと思います。

## 認定特定非営利活動法人 横浜移動サービス協議会



お話を伺った方 副施設長 山野上様

事業所紹介 横浜市中区

横浜市を中心に、高齢や障がいのために外出が難しい方をサポートする移動サービスのネットワークです。「つなぐ」、「支える」、「学ぶ」、「遊ぶ」を4本柱として、多様な事業を通じて外出サポートが必要な方々の快適で楽しい生活を応援しています。



### ◆就労訓練事業に申し込まれた理由をお聞かせください

平成21年11月の緊急雇用対策以降、特別支援学校の通学見守り事業に取り組んだ際、若者サポートステーションとK2インターナショナルの両社から21人の若者を受け入れてきました。その後、就労訓練事業の制度化に伴い就労訓練者の受け入れも開始いたしました。

### ◆就労訓練の実施の様子をお聞かせください

当会での訓練は、ボランティア活動への参加という扱いで受け入れています。継続する場合には、一回500円のボランティア奨励金から始まり少しずつ謝金を増やし、スタッフになった方もいらっします。障害者や高齢者の支援を行っている当会は活動内容の幅も広く、訓練者に応じた活動の場を提供でき、ゆっくりと本人のペースで進めていくことができます。その中で「ありがとう」の言葉をかけられる経験の積み重ねが、本人の自信に繋がっているのではないかと思います。しかし、すぐに適応できる就労の場を希望している方にとっては、単純作業や固定作業

が少ないため、軽作業等の仕事の習熟には向かない環境かもしれません。

### ◆実際に就労訓練を受け入れた感想をお聞かせください

これまで、能力面の力はあるが、なんらかの躓き経験がきっかけで社会とつながれない若者に多く関わってきました。彼らが多様な人たちのいる場に身を置き、時間をかけて人々の関わり方を観たり、自ら関わったりする機会を持つことで、ある時“ストン”と落ちる瞬間があって、何かに気づき、大きく変化することがあります。

その人に寄り添って支え合う人達がいて、メンタルの部分をしっかりサポートする場を提供できていると思います。就労訓練事業では、ケースワーカーの方と連携して、自分を見つめ気づく経験と、窓口の就労支援が相互に作用して、社会参加の糸口をみつけていかれるように思います。

### ◆この就労訓練事業の改善点についてお聞かせください

受け入れについては、一人ひとりの状況に応じて配慮し、訓練者とも話をして環境を整えています。訓練前に、予め支援経過や効果や、能力面の情報などもお伝えいただけると支援を効果的に行えると思います。また、配慮の必要な方たちにはそれなりに時間と人手をかけていますので、若干でも報奨金がいただけると嬉しいです。



## 社会福祉法人敬愛 特別養護老人ホーム けいあいの郷 緑園



お話を伺った方 施設長 小宮様

事業所紹介 横浜市泉区

入居者の方々が安心・安全で楽しく豊かな生活ができ、スタッフもやりがいや希望をもって楽しく働ける、地域と一体となった運営を目指す高齢者施設です。



### ◆就労訓練事業に申し込まれた理由をお聞かせください

介護事業所としての人材確保のニーズと、何らかの事情で働けない方の社会参加のきっかけになればよいという社会貢献の考えがあり申請しました。

入居者のきめ細かい生活支援にはやる事がたくさんあります。そんな職場には、バリバリ働ける方もいて、バリバリでなくても、いつもこの方が居てくれて安心という方もいて、それぞれの個人の能力が活かせるという職場ができるのではないかと考えています。

### ◆実際に就労訓練を受け入れた感想をお聞かせください

これまで受け入れた方は、いずれも、前向きで、素直で、真面目な方でした。社会に対して何らかの壁があって、心を閉ざしたり躓きの経験があったりした方かと思いますが、働き方を拝見してみると、仕事をする方に大きな問題はなくて、人との関わり方に不安があるのだと解りました。予めどのような方が知った上で、訓練期間に成長を見守ることができたため、安心して雇用へ移行することができました。

### ◆事業所内に変化はありましたか

職員にとっては、職場が社会の中の居場所なんだらうと思います。その職場で、就労訓練者の受入れを経験することで、新しい方にわかりやすく教えたり、見守ったりという体制が主体的にできてくるように思います。上長一人に任せるのではなく、周りの職員もみんなで関わり、初めての人どう

うまく仕事を伝えるか、伝わっていないことがあったら次にどうすればいいか、自分たちで考え、学ぶ良い機会になっていると思います。

### ◆就労訓練の運営について感想をお聞かせください

区の担当者や支援センターと我々事業所の三者体制で訓練を実施することで、訓練者にとっては相談しやすく、事業所にとっても訓練者をよく知っている人が居るため、いい形で安心してスタートできる制度だと思います。職場で訓練者を見ていて不安を感じたときや、訓練者ひとりでは修復できないことも、振り返りの機会に区の担当者や支援センターと調整して軌道修正ができる。これは大きなメリットではないでしょうか。

また、中間支援組織としての支援センターが、あらかじめ本人のニーズをよく理解したうえで繋いでくれていることで、信頼して受け入れができています。

### ◆就労訓練事業の制度についてお考えをお聞かせください

いろんな個性を認める社会になってきており、ひきこもりになった人に「できることからいいよ。」と言いつつも、社会と関わらなくては生きていられない現状もあります。様々な理由で社会からはぐれてしまった人たちを、こちらから見つけ出す仕組みと、「それでもいいよ。」と言ってあげられる居場所があって、そこから、本事業のように一つ一つ個別に企業や社会とつながる機会を提供するという仕組みは、今後さらに重要になってくると思います。また、支援センターのような中間的支援機能がより必要とされるだらうと思います。